諸輪の松と
名古屋城とのつながり

名古屋城には、諸輪から2度に渡って松が贈られています。
最初は初代尾張藩主徳川義直公の名古屋城造営中（1615年）に、諸輪村から数百本の松が献木されました。
その後、名古屋城の樹木は、戦火の影響で焼失したことや、樹齢や台風などの影響で減少したため、1962年、古事に倣って諸輪区より、再び178本の松が寄贈されました。



名古屋城にある「諸輪の松」説明板



東郷町教育委員会

昭和の”松献上”

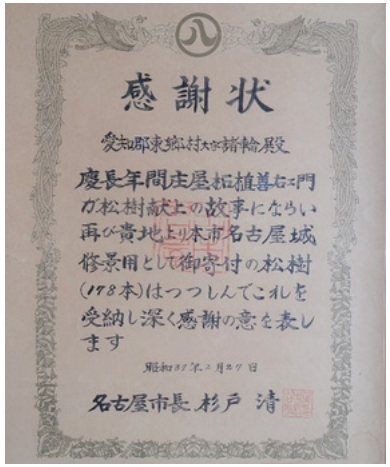
1962年、名古屋城管理事務所から古記録の由緒に従って、東郷村役場を通じて諸輪区に献木の依頼がありました。
諸輪区では区議会を開いて、区民の賛同を得て、共有山林から小松（高さ1m～2m）178本を区民に割当て、堀取って1962年2月27日、自動車25台に分乗し名古屋城へ運びました。



道中、名古屋市内では数10台の白バイの護衛によって城内に到着。城内では出迎えを受け、盛大な献納式が行われ、諸輪区民によって松の植え込みが行われました。



献納式 中央左から名古屋市長 杉戸清氏、
東郷村長 野々山佃氏、諸輪区長 柘植昇太郎氏



感謝状

愛知郡東郷村大字諸輪殿

慶長年間庄屋柘植善右エ門ガ松樹献上の故事にならい再び貴地上ノ本市名古屋城修景用として御寄付の松樹（178本）はつつしんでこれを受納し深く感謝の意を表します

昭和37年2月27日

名古屋市長 杉戸 清

1962年の献木への感謝として、当時の名古屋市長杉戸清氏から同日付けで感謝状が諸輪区に贈られ諸輪区事務所で大切に保管されています。

＜説明板の地図＞



名古屋城公式ウェブサイトより

名古屋市観光文化交流局
名古屋城総合事務所
〒460-0031 愛知県名古屋市中区本丸1番1号
電話番号：052-231-1700
fax番号　：052-201-3646





©TK.co